

地域と手を取り合う

地域のあたたかい支援は欠かせない

金瀬 志津

杉っ子愛レンジャー結成

子どもの命を脅かすような、事件や事故が各地で起きている。本校の校区は比較的穏やかな土地柄であるが、いつそういうことが起きないとも限らない。子どもたちの安全、安心を守るために、学校、家庭、地域がより一層の連携を図ることになった。

まず、今まであった「こども110番の家」を自治会の協力の下、117軒に増やし、緊急時の避難場所として協力をお願いした。さらに、子どもたちの安全を守るために新たに「杉っ子愛レンジャー」を結成した。活動内容は、登下校の時間帯に通学路に立って、子どもたちを見守っていただくというものである。太陽が照りつける暑い夏の日も、木枯らしが吹きすさぶ寒い冬の日も、毎日笑顔で子どもたちに声をかけてくださる姿には、本当に頭が下がる。

現在、愛レンジャーに登録していただいている方々は256名である。在校生の家族の方々が必要な登録者であるが、中には、本校の卒業生ということで協力を申し出てくださった方もいる。本校の近所に住んでおられる福田さんもその一人である。福田さんは自分自身も子どもも小杉小学校にお世話になったということで、登録を申し出られた。

みんなで福田さんと握手

いつも笑顔で、子どもたちの登下校を見守ってくださっている福田さん。福田さんの「おはよう」の声に元気に答える子どももいれば、恥ずかしそうにうつむいている子どももいる。もっと子どもたちと愛レンジャーの方々が親しくなれないかという教師の願いから、福田さんにもう一つ協力をお願いした。それは、秋の遠足での子どもたちとのふれあいである。

本校の秋の遠足は、1年生から6年生までの縦割りグループで町内オリエンテーリングをするというものである。今年



福田さんと握手。福田さんの手って温かいね。

度は地域の人とのふれあい活動を加え、その一つとして、福田さんの家の前での握手を入れた。遠足当日は、好天に恵まれ、快く引き受けてくださった福田さんは、子どもたちが到着する30分前から準備をして待っていてくださった。そして、到着した子どもたち一人一人に「車に気をつけてね」「みんなで仲よくがんばってね」と声をかけながら、しっかりと握手してくださった。いつもは、はにかみながらうつむいている浩子も、あたたかい言葉と握手に思わず「はい」と返事をしながら、うれしそうに次のポイントへと向かっていった。福田さんと浩子の心がつながった瞬間であった。

あたたかい福田さんの投書

後日、福田さんが新聞にそのときのことを投書された。「320人の児童と握手した朝」と題された投書には、遠足の時の子どもたちの様子が詳しく書いてあり、福田さんのあたたかさがにじみ出ている。

その後、子どもたちと愛レンジャーの方々の距離が急に縮まったということはない。しかし、子どもたちの挨拶の声は少しずつ大きくなっているように思う。自分たちの安全を守ってくださっている愛レンジャーの方々への感謝の気持ちを忘れず、毎日元気に登校してほしいと思う。